題名：「腸内細菌目細菌のセファゾリン(CEZ)の感受性未報告が処方動向に与える影響」

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 (承認番号)	「腸内細菌目細菌のセファゾリン(CEZ)の感受性未報告が処方動向に与える影響」に関する後ろ向き観察研究 (2025-9)
当院の研究責任者 (所属)	大原 理沙 (薬剤部)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	当院では細菌同定感受性検査装置としてバイテック 2 を使用しており、グラム陰性菌の感受性カードは AST-N29 を選択している。腸内細菌目細菌の感受性において、非複雑性尿路感染症以外の感染症におけるセファゾリン(CEZ)の感受性 $4\mu\text{g/mL}$ 以下の場合に Susceptible(S)か Intermediate(I)か判断できず、感受性が未報告となる。その影響で、de-escalation 時や内服移行時に広域の抗菌薬が選択されることがある。ディスク拡散法検査の追加依頼を行い、CEZ の感受性結果を判定してから抗菌薬の選択をすることで、抗菌薬の適正使用を目指す。
研究の方法 (利用する試料・情報)	当院で血液培養から E. coli/ Klebsiella 属/P. mirabilis が検出された症例について、疾患名、CEZ のディスク拡散法検査の件数とその感受性結果、アンピシリン(ABPC)の感受性、de-escalation 時と内服移行時の抗菌薬について後方視的に調査する。 研究実施期間：2025 年 6 月～2025 年 12 月
利用する試料・情報の 該当期間	2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日

試料・情報の他の 研究機関への提供 および提供方法	なし
個人情報の取り扱い	利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：045-474-8111(代表) メールアドレス：kenkyu@yokohamah.johas.go.jp 担当者：大原 理沙 (所属：薬剤部)
備考	